参考資料１

令和８年度
博多湾の環境保全に向けて講じようとする措置
およびモニタリング調査内容

令和８年８月

目　次

1　博多湾の環境保全に向けて講じようとする措置およびモニタリング調査内容 ... 1

博多湾環境保全計画（第三次）の指標・目標・モニタリング内容 1

基本的方向１　ささえる　～多様な生きものや市民生活を支える博多湾～ 3
（１）　計画目標像 3
（２）　指標・目標等 3
（３）　環境保全に向けて講じようとする措置 3
（４）　モニタリング内容 6
①　公共用水域水質調査 6
②　貧酸素発生状況調査 6
③　赤潮発生状況調査 7
④　博多湾魚類調査 8
⑤　浚渫土砂有効活用施工箇所における調査 9

基本的方向２　はぐくむ　～多様な生きものを育み、恵みをもたらす博多湾～ .. 10
（１）　計画目標像 10
（２）　指標・目標等 10
（３）　環境保全に向けて講じようとする措置 10
（４）　モニタリング内容 13
①　海藻類種数調査 13
②　和白干潟での干潟生物調査 13
③　今津干潟でのカブトガニ産卵・幼生調査 14
④　博多湾でのカブトガニの亜成体・成体調査（標識調査） 14
⑤　博多湾鳥類調査 15
⑥　アサリ資源量調査（稚貝・成貝の生息状況） 15
⑦　博多湾魚類調査（再掲） 16
⑧　浚渫土砂有効活用施工箇所における調査（再掲） 17
（５）　実績値把握 18
①　鳥類（環境省モニタリングサイト 1000） 18
②　漁業・養殖生産量 18

基本的方向３　ふれあう　～市民が身近にふれあう博多湾～ 19
（１）　計画目標像 19
（２）　指標・目標等 19
（３）　環境保全に向けて講じようとする措置 19
（４）　モニタリング内容 20
①　水浴場水質等調査 20
（５）　実績値把握 20
①　ラブアース・クリーンアップ参加者数 20
②　百道浜来客者数 20
③　ごみ回収量（海浜地ごみ・海底ごみ等） 20

基本的方向４　つなぐ　～豊かな恵み・ふれあいを未来につなぐ博多湾～ 21
（１）　計画目標像 21
（２）　指標・目標等 21
（３）　環境保全に向けて講じようとする措置 21
（４）　実績値把握 22
①　博多湾環境保全創造活動の開催数..... 22
②　まもるーむ福岡における博多湾環境保全に関するイベント実施回数及び参加者数 22

その他（地球温暖化の影響） 23
①　潮位..... 23
②　気温、全天日射量、降水量..... 23
③　水温..... 23

２　課題解決に向けた調査・研究の内容 24

（１）　博多湾のノリ、ワカメ養殖場の栄養塩について 24
（２）　博多湾の水質環境について 24
（３）　二枚貝類生息環境調査について 24
（４）　博多湾における環境ＤＮＡを用いた魚類のモニタリング 24
（５）　魚類相による博多湾のアマモ場等評価 24
（６）　博多湾水質の統計解析 24
（７）　赤潮発生及び出水時の水質・生物調査 25
（８）　高次生態系への栄養塩類負荷量の影響把握 25

３　市民・事業者・NPO 等と共働による環境保全活動の推進..... 26

４　計画の推進 27

①　計画の推進体制..... 27
②　情報の発信..... 27

1　博多湾の環境保全に向けて講じようとする措置およびモニタリング調査内容

博多湾環境保全計画（第三次）の指標・目標・モニタリング内容

基本的方向 （博多湾の多面的機能）	R16 計画目標像	主な施策	指標・目標等		モニタリング内容・実績値把握
「ささえる」 多様な生きものや市民生活を支える博多湾	豊かな海の実現に向けた適切な水質保全が行われている	・下水の高度処理 ・合流式下水道の改善 ・底質改善 ・博多湾の栄養塩類のあり方検討	[指標・目標] ・水質 COD T-N T-P ・博多湾海域における魚種数	・環境基準達成状況　現状維持 ⇒※二次計画期間内の最低達成率以上 COD　2/8 地点 T-N　2/3 海域 T-P　全３海域 ・現状維持　69 種	[モニタリング内容] ・公共用水域水質調査 ・貧酸素発生状況調査（底生生物、底質含む） ・赤潮発生状況調査 ・博多湾魚類調査 ・浚渫土砂有効活用施工箇所における調査
	港湾機能、漁業活動と調和している	・浚渫土砂を有効活用した窪地埋め戻し ・浚渫土砂を有効活用した覆砂・浅場造成の検討・実施	[参考項目] ・水質（無機態 N・P、N/P 比） ・底層 DO ・底質 ・底生生物 ・赤潮発生件数・日数 ・浚渫土砂有効活用施工箇所における底生生物・底質等		
「はぐくむ」 多様な生きものを育み、恵みをもたらす博多湾	多様な生きものが生まれ育つ場が保全・再生・回復している	・藻場の保全・再生 ・干潟保全活動の推進 ・浚渫土砂を有効活用した窪地埋め戻し（再掲） ・浚渫土砂を有効活用した覆砂・浅場造成の検討・実施（再掲） ・底質改善（再掲）	[指標・目標] ・博多湾の藻場面積 ・海藻類の種数 （志賀島、能古島、今津） ・博多湾海域における魚種数（再掲）	・現状維持 ⇒Ｒ５博多湾藻場分布調査の面積（419.4ha） ・現状維持 ⇒※二次計画期間内の最少種数以上 今　津　54 種 能古島　47 種 志賀島　54 種 ・現状維持　69 種	[モニタリング内容] ・博多湾藻場分布調査 ・海藻種数調査 ・和白干潟での干潟生物調査 ・今津干潟でのカブトガニ産卵・幼生調査 ・博多湾でのカブトガニ成体・亜成体調査 ・博多湾鳥類調査 ・アサリ資源量調査 ・博多湾魚類調査（再掲） ・浚渫土砂有効活用施工箇所における調査（再掲） [実績値把握] ・鳥類（環境省モニタリングサイト 1000） ・漁業・養殖生産量
			[参考項目] ・博多湾の鳥類の種数・個体数 ・和白干潟の干潟生物（種数、個体数、湿重量） ・カブトガニの産卵状況、幼生・亜成体・成体の生息状況 ・浚渫土砂有効活用施工箇所における底生生物・底質等（再掲）		
	多種多様な水産資源が持続的に漁獲されている	・アサリ等資源再生活動 ・種苗放流 ・海藻養殖漁場の栄養塩対策の検討	[指標・目標] ・室見川河口干潟のアサリ推定資源量 ・一人当たり漁業生産量 ・ノリ養殖生産量	※福岡市水産業総合計画に定める目標に準ずる ・室見川河口干潟のアサリ推定資源量 136 トン ・一人当たり漁業生産量　8.88 トン ・ノリ養殖生産量　187 トン	
			[参考項目] ・漁業・養殖生産量		

基本的方向 （博多湾の多面的機能）	R16 計画目標像	主な施策	指標・目標等		モニタリング内容・実績値把握
「ふれあう」 市民が身近にふれあう博多湾	市民の親水空間が良好な状態で保全されている	・ラブアース・クリーンアップ ・海浜地の清掃 ・アオサ回収 ・砂浜海浜の維持管理	[指標・目標] ・ラブアース・クリーンアップ参加者数 ・百道浜来客者数 ・水浴場水質	・現状値より増加 ⇒R5 年度（41,800 人）よりも増加 ・現状値より増加 ⇒R5 年度（300 万人）よりも増加 ・全地点 A 以上	[モニタリング内容] ・水浴場水質等調査 [実績値把握] ・ラブアース参加者数 ・百道浜来客者数 ・ごみ回収量 （海浜地ごみ・海底ごみ等）
			[参考項目] ・ごみ回収量		
「つなぐ」 豊かな恵み・ふれあいを未来につなぐ博多湾	森里川海のつながりを意識した取組みが進んでいる 多様な主体がそれぞれの強みを活かしながら博多湾の環境保全創造活動を行っている 豊かな博多湾を未来につなげる取組みが進んでいる	・環境保全創造活動の推進 ・環境保全に関する情報発信 ・ラブアース・クリーンアップ（再掲） ・小学生を対象とした環境学習	[指標・目標] ・博多湾環境保全創造活動の開催数 ・まもるーむ福岡における博多湾環境保全に関するイベント実施回数及び参加者数	・現状値より増加 ⇒R5 年度（31 回）よりも増加 ・現状値より増加 ⇒R5 年度（7 回及び計 148 名）よりも増加	[実績値把握] ・博多湾環境保全創造活動の開催数 ・まもるーむ福岡における博多湾環境保全に関するイベント実施回数及び参加者数

その他（地球温暖化の影響）

モニタリング内容・実績値把握
・潮位 ・気温、全天日射量、降水量 ・水温

基本的方向１　ささえる　～多様な生きものや市民生活を支える博多湾～

（１）　計画目標像

・豊かな海の実現に向けた適切な水質保全が行われている
・港湾機能、漁業活動と調和している

（２）　指標・目標等

指標・目標		モニタリング内容
・水質 COD T-N T-P	・環境基準達成状況　現状維持 ⇒※二次計画期間内の最低達成率以上 COD　2/8 地点以上 T-N　2/3 海域以上 T-P　全３海域	①公共用水域水質調査 ②貧酸素発生状況調査 （底生生物、底質含む） ③赤潮発生状況調査 ④博多湾魚類調査 ⑤浚渫土砂有効活用施工箇所における調査
・博多湾海域における魚種数	・現状維持　69 種	
参考項目		
・水質（無機態 N・P、N/P 比） ・底層 DO ・底質 ・底生生物 ・赤潮発生件数・日数 ・浚渫土砂有効活用施工箇所における底生生物・底質等		

（３）　環境保全に向けて講じようとする措置

No.	事業名	概要	事業主体
ア　流域での対策			
（ア）　発生源負荷対策			
1	下水の高度処理	富栄養化による水質汚濁防止に取り組んでいく	道路下水
2	合流式下水道の改善	博多駅周辺地区および天神周辺地区における合流式下水道の分流化	道路下水
3	公共下水道等の整備	公共下水道・流域下水道の整備及び農業・漁業集落排水処理施設の機器更新を推進	道路下水 農林水産
4	雨水流出抑制施設助成制度	雨水の貯留・浸透施設（雨水貯留タンク・雨水浸透施設）設置者に対する助成	道路下水
5	透水性舗装の実施	透水性のアスファルト舗装の実施	道路下水

1　博多湾の環境保全に向けて講じようとする措置およびモニタリング調査内容

No.	事業名	概要	事業主体
ア　流域での対策			
（ア）　発生源負荷対策			
6	工場・事業場排水の規制・指導	水質汚濁防止法に基づく特定事業場に対する監視・指導	環境
		市民からの水質事故の通報に対する迅速な現地調査や必要に応じて法や条例に基づく指導などの適正な対応	環境 各区
		下水道を使用する工場・事業場排水の水質規制	道路下水
9	農畜産排水対策	畜産農家に対する家畜ふん尿の適正処理の啓発	農林水産
10	合併処理浄化槽設置助成制度	合併処理浄化槽の設置費用の一部を助成することにより、水洗化を促進	道路下水
11	浄化槽の適正管理の指導	浄化槽の適正管理指導の実施	保健医療
（イ）　河川などでの対策			
12	河川の清掃	本市中心部を流れる那珂川、御笠川、博多川の3河川で、毎月21日間、清掃船による浮遊ごみ等の清掃を実施	環境
13	河川愛護活動支援金	市民による河川の清掃等への支援	道路下水
14	河川の環境整備	環境に配慮した河川整備	道路下水
15	治水池環境美化活動支援金	市民による治水池の清掃等への支援	道路下水
16	治水池環境整備	環境に配慮した治水池環境整備	道路下水
17	ため池の整備	自然共生型ため池において、市民の健康づくりや憩いの場として活用されるよう、地域との共働により清掃活動等を実施	農林水産
18	森林環境整備事業	今後荒廃する恐れのある森林に対し間伐などを実施	農林水産
19	森と海の再生交流事業	漁業者、林業関係者、ボランティア団体等と共働で、植林作業等を実施	農林水産
20	市営林保育管理事業	森林の水源かん養や保健休養、国土保全、環境保全等の多面的機能を高めるため、下刈や間伐等の保育を計画的に実施	農林水産
21	室見川水系一斉清掃	室見川水系の上流から下流までの一斉清掃	早良区

No.	事業名	概要	事業主体
ア　流域での対策			
（イ）　河川などでの対策			
22	地下水水質の保全	地下水の汚染状況把握のための概況調査、及び概況調査で汚染が判明した場合の汚染井戸周辺地区調査や継続調査の実施	環境
23	ゴルフ場農薬調査	「ゴルフ場で使用される農薬による水質汚濁の防止及び水域の生活環境動植物の被害防止に係る指導指針」に基づき、排出水等の調査の実施	環境
（ウ）　水の有効利用			
24	雨水の有効利用	公共・民間施設における雨水の有効利用（貯留）の推進	総務企画 水道
25	雨水の利用及び工場作業排水の再利用	橋本車両基地内に降った雨水を作業用水として利用するとともに、その水を再処理して、基地内および橋本駅のトイレの洗浄水として再利用	交通
26	広域循環型雑用水道	下水処理水のトイレ洗浄用水、樹木散水用水利用	道路下水
27	個別循環型雑用水道	個別建築物において発生した汚水・雑排水を処理し、水洗便所の洗浄用水として利用	水道
28	「水をたいせつに」広報の推進	イベントや水道局ホームページ・SNSでの情報発信、各種印刷物の制作など広報活動を実施	水道
（エ）　博多湾の栄養塩類のあり方検討			
29	博多湾の栄養塩類のあり方検討	博多湾環境保全計画推進委員会において博多湾の現状整理や望ましい栄養塩類濃度の検討を実施	環境 ほか
イ　海域での対策			
（ア）　浚渫土砂を有効活用した窪地の埋め戻し			
30	浚渫土砂を有効活用した窪地の埋め戻し	南側沿岸部の窪地において、航路の浚渫土砂を有効利用した埋め戻しを実施	国土 交通省
（イ）　浚渫土砂を有効活用した覆砂・浅場造成の検討・実施			
31	浚渫土砂を有効活用した覆砂・浅場造成の検討・実施	環境改善が見込まれる場所等において、航路の浚渫土砂を有効利用した覆砂・浅場造成の検討を実施	国土 交通省
（ウ）　底質改善			
32	漁場環境保全のための海底ごみ回収等の実施	海底耕うん、海底ごみ回収、漁港清掃	農林水産
33	底質改善（シーブルー事業）	東部海域での海底耕うん(シーブルー事業)	港湾空港

（4） モニタリング内容

① 公共用水域水質調査

・調査主体：環境局環境保全課
・調査地点：博多湾の環境基準点 8 地点（図 1）
・調査時期：毎月 1 回
・調査項目：環境基準項目（COD、T-N、T-P 等）
　　無機態窒素（NO_3-N、NO_2-N、NH_4-N）、リン（PO_4-P）等
・採取方法：バンドーン型採水器を用いて、表層（海面下 0.5m）、中層（海面下 2.5m）、底層（海底上 1.0m）の海水を採水

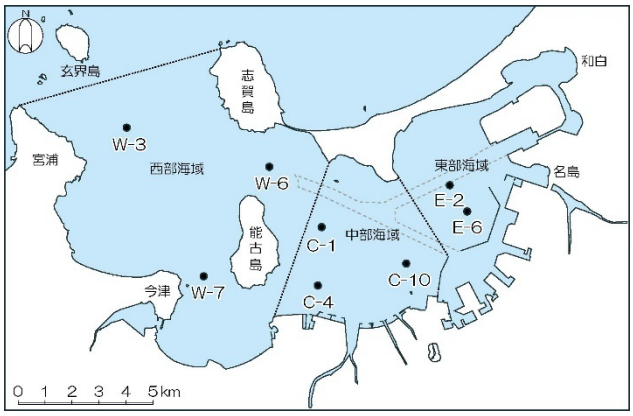


図 1　公共用水域水質調査地点

② 貧酸素発生状況調査

【水質】
・調査主体：環境局自然共生課、環境保全課
・調査地点：西部海域 5 地点、中部海域 6 地点、東部海域 5 地点（図 2）
・調査時期：W-3、W-6、W-7、W-9、W-10、C-1、C-4、C-9、C-10、
　　C-12、C-C、E-2、E-6、E-X1、IM-1、IM-3　：5～12 月頃
・調査項目：溶存酸素（DO）、水温、pH、塩分、chl-a 蛍光強度
・測定機器：多項目水質測定器
・測定位置：海面から海底まで 0.5m 間隔および海底上 0.1m

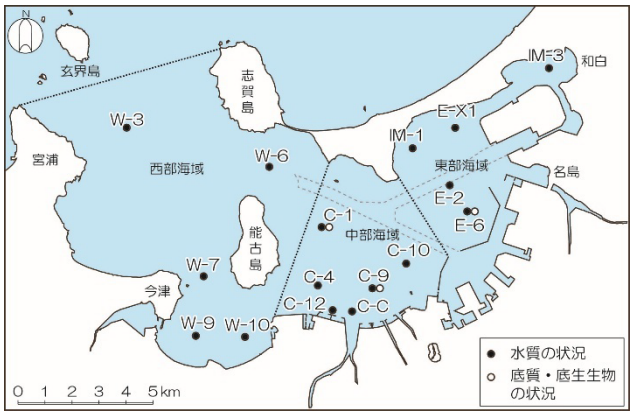


図 2　貧酸素発生状況調査地点

【底質】
・調査主体：環境局自然共生課、環境保全課
・調査地点：C-1、C-9、E-6、IM-3（図 3）
・調査時期：C-1、E-6：5 月、8 月、9～10 月、11～12 月に各 1 回
　　C-9：5 月、9～10 月、11～12 月に各 1 回
・調査項目：粒度組成、COD_{sed} 、硫化物、AVS、強熱減量
・採取機器：スミスマッキンタイヤ型採泥器（採泥面積：1/20 ㎡、深さ約 10～15cm）若しくはアクリルコア等
・採取方法：　1 地点あたり 3 回採取した底泥を混合

【底生生物】
・調査主体：環境局自然共生課
・調査地点：C-1、C-9、E-6（図 3）
・調査時期：5 月、9～10 月頃、11 月～12 月頃に各 1 回
・調査項目：底生生物の種類・個体数・湿重量
・採取機器：スミスマッキンタイヤ型採泥器
・採取方法：1 地点あたり 3 回採取した底泥を混合し、網目 1×1㎜ の袋型ネットでふるい分け

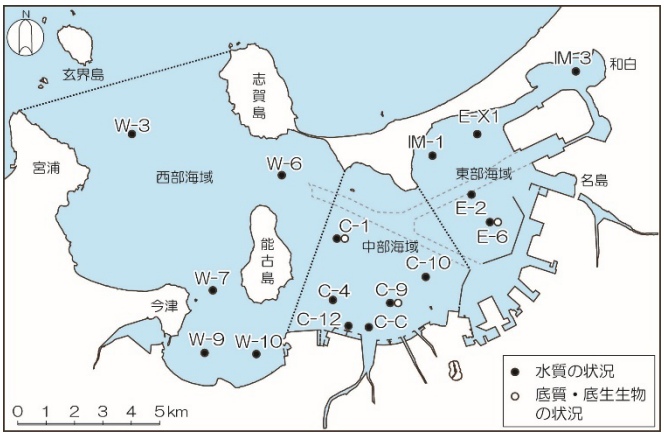


図 3　貧酸素発生状況調査地点

③ 赤潮発生状況調査

・調査主体：福岡県水産海洋技術センター
・調査範囲：博多湾全域
・調査時期：通年
・調査項目：赤潮発生の有無、発生範囲、赤潮構成種、最大細胞数
・調査方法：目視観察
　　表層水を採水し、持ち帰り、赤潮構成種の種類と数の計測

④ 博多湾魚類調査

・調査主体：保健医療局環境科学課
・調査地点：環境基準点である博多湾 8 地点（図 4）
・調査時期：年数回
・調査項目：環境 DNA を用いた魚種数
・採取方法：ステンレス製バケツを用いて表層（海面下 0.5m）の海水を採水
　　バンドーン型採水器を用いて底層（海底上 1.0m）の海水を採水

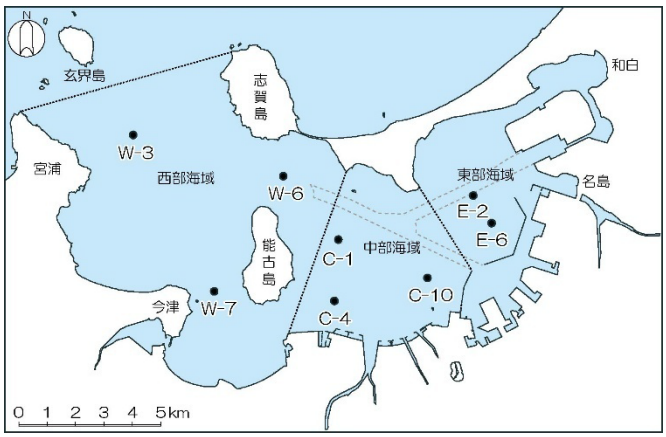


図 4　公共用水域水質調査地点

⑤ 浚渫土砂有効活用施工箇所における調査

＜窪地の埋め戻し＞

・調査主体：国土交通省
・調査地点：窪地埋め戻し箇所（愛宕浜沖窪地箇所、百道浜沖窪地箇所）（図 5）
・調査時期：年 4 回

【底質】

・調査項目：粒度組成、COD_{sed} 、硫化物、強熱減量
・採取機器：エクマンバージ型採泥器又はこれに準じる採泥器
・調査方法：底泥を 1 地点あたり 3 回採取し混合

【底生生物】

・調査項目：底生生物の種類・個体数・湿重量
・採取機器：エクマンバージ型採泥器又はこれに準じる採泥器
・調査方法：1 地点あたり 3 回採取した底泥を混合し、網目 1×1㎜ の袋型ネットでふるい分け

＜浅場造成箇所＞

・調査主体：国土交通省
・調査地点：浅場造成箇所（図 5）
・調査時期：年 4 回

【底質】

・調査項目：粒度組成、COD_{sed} 、硫化物、強熱減量
・採取機器：ハンドグラブサンプラー又はこれに準じる採泥器
・調査方法：底泥を 1 地点あたり 2 回採取し混合

【底生生物】

・調査項目：底生生物の種類・個体数・湿重量
・採取機器：ハンドグラブサンプラー又はこれに準じる採泥器
・調査方法：1 地点あたり 1 回採取した底泥を混合し、網目 1×1㎜ の袋型ネットでふるい分け

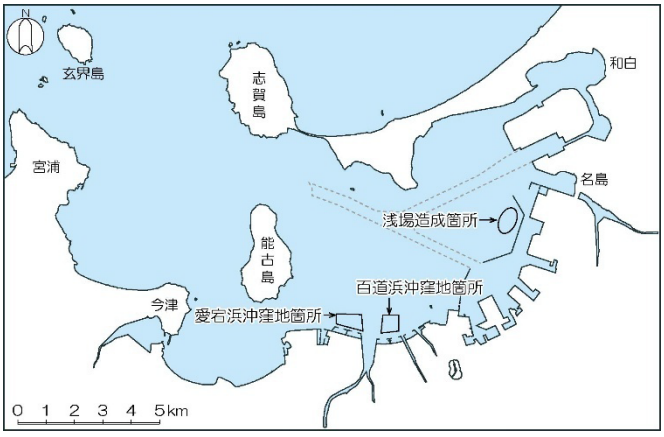


図 5　浚渫土砂有効活用施工箇所の調査地点

基本的方向２　はぐくむ　～多様な生きものを育み、恵みをもたらす博多湾～

（１）　計画目標像

・多様な生きものが生まれ育つ場が保全・再生・回復している
・多種多様な水産資源が持続的に漁獲されている

（２）　指標・目標等

指標・目標		モニタリング内容・実績値把握
・博多湾の藻場面積	・現状維持 ⇒Ｒ５博多湾藻場分布調査の面積（419.4ha）	［モニタリング内容］ ①博多湾藻場分布調査 ②海藻種数調査 ③和白干潟での干潟生物調査 ④今津干潟でのカブトガニ産卵・幼生調査 ⑤博多湾でのカブトガニ成体・亜成体調査 ⑥博多湾鳥類調査 ⑦アサリ資源量調査 ⑧博多湾魚類調査（再掲） ⑨浚渫土砂有効活用施工箇所における調査（再掲） ［実績値把握］ ①鳥類（環境省モニタリングサイト 1000） ②漁業・養殖生産量
・海藻類の種数 （志賀島、能古島、今津）	・現状維持 ⇒※二次計画期間内の最少種数以上 今　津　54 種 能古島　47 種 志賀島　54 種	
	※福岡市水産業総合計画に定める目標に準ずる	
・室見川河口干潟のアサリ推定資源量	・室見川河口干潟のアサリ推定資源量　136 トン	
・一人当たり漁業生産量	・一人当たり漁業生産量　8.88 トン	
・ノリ養殖生産量	・ノリ養殖生産量　187 トン	
・博多湾海域における魚種数（再掲）	・現状維持　69 種	
参考項目		
・博多湾の鳥類の種数・個体数 ・和白干潟の干潟生物（種数、個体数、湿重量） ・カブトガニの産卵状況、幼生・亜成体・成体の生息状況 ・漁業・養殖生産量 ・浚渫土砂有効活用施工箇所における底生生物・底質等（再掲）		

（３）　環境保全に向けて講じようとする措置

No.	事業名	概要	事業主体
ア　沿岸漁業の振興			
1	アサリ等資源再生事業	漁業者による博多湾内でのアサリ等の資源再生活動への支援、アサリ採捕規制の周知等	農林水産
2	水産資源生育環境調査	博多湾におけるアサリ分布状況やアサリ浮遊幼生密度等を調査	農林水産

No.	事業名	概要	事業主体
ア　沿岸漁業の振興			
3	栽培漁業推進事業	水産資源の維持増大等を図るため、クルマエビ等の種苗放流を実施	農林水産
4	環境・生態系保全活動支援事業	藻場の機能の維持・回復を目的とした食害生物（ウニ類）の除去や漂流・漂着物・堆積物の回収等の保全活動に対する支援	農林水産
5	離島漁業再生活動促進事業	玄界島・小呂島地区において、漁業者が自主的に取り組む漁業再生活動を支援	農林水産
6	漁場環境の見える化	水中ドローン等を活用し、漁場の状況等を把握するための調査を実施	農林水産
7	海の森づくり事業	藻場の再生・拡大により、漁場環境の改善を図るとともに、二酸化炭素の吸収を促進	農林水産
8	海と人をつなぐ藻場再生事業	漁業者・市民・企業等と回収した海藻を活用した藻場の再生・拡大	農林水産
9	水産物フェア事業	市漁協、漁業者による水産物及び水産加工品の魅力を発信し、広く浸透させる取り組みに対する支援	農林水産
イ　藻場の保全・再生			
10	環境・生態系保全活動支援事業（再掲）	藻場の機能の維持・回復を目的とした食害生物（ウニ類）の除去や漂流・漂着物・堆積物の回収等の保全活動に対する支援	農林水産
11	海の森づくり事業（再掲）	藻場の再生・拡大により、漁場環境の改善を図るとともに、二酸化炭素の吸収を促進	農林水産
12	海と人をつなぐ藻場再生事業（再掲）	漁業者・市民・企業等と回収した海藻を活用した藻場の再生・拡大	農林水産
13	漁場環境の見える化（再掲）	水中ドローン等を活用し、漁場の状況等を把握するための調査を実施	農林水産
14	海域環境の改善	和白海域でのアマモ場造成（シーブルー事業）、多様な主体との共働によるアマモ場づくり活動等	港湾空港
ウ　海藻養殖漁場の栄養塩類対策の検討			
15	西部水処理センターにおけるリン放流水質の季節別管理運転の試行	ノリの養殖場に近い西部水処理センターにおけるリンの放流水質の季節別管理運転の試行	道路下水
16	海藻養殖漁場におけるリン添加試験の試行	漁業者が行う海藻養殖漁場におけるリン添加試験の試行	漁業者

No.	事業名	概要	事業主体
エ　干潟保全活動の推進			
17	和白干潟保全のつどい	和白干潟を中心に活動する市民団体等と「和白干潟保全のつどい」において、環境保全活動等を実施	港湾空港
18	里海保全再生事業	今津干潟において、地域住民や多様な主体と共働で干潟の保全再生活動を実施	環境
19	市民参加による干潟生物調査	干潟の重要性、多様な生物の生息場や水質浄化機能等の役割を学ぶ一環として、市民参加による干潟生物調査を実施	環境
オ　海底ごみの回収			
20	漁場環境保全のための海底ごみ回収等の実施（再掲）	海底耕うん、海底ごみ回収、漁港清掃	農林水産
カ　生きものの生息環境に配慮した水辺空間の整備			
21	アイランドシティの環境づくり	緑地整備の推進	港湾空港
22	エコパークゾーンの水域利用	エコパークゾーンの水域利用について、関係者とともに、住環境及び自然環境に配慮した自主ルール啓発のための活動を実施	港湾空港
23	和白護岸整備事業	自然石護岸の整備	港湾空港
キ　浚渫土砂を有効活用した窪地の埋め戻し（再掲）			
24	浚渫土砂を有効活用した窪地の埋め戻し（再掲）	南側沿岸部の窪地において、航路の浚渫土砂を有効利用した埋め戻しを実施	国土交通省
ク　浚渫土砂を有効活用した覆砂・浅場造成の検討・実施（再掲）			
25	浚渫土砂を有効活用した覆砂・浅場造成の検討・実施（再掲）	環境改善が見込まれる場所等において、航路の浚渫土砂を有効利用した覆砂・浅場造成の検討を実施	国土交通省
ケ　底質改善（再掲）			
26	漁場環境保全のための海底ごみ回収等の実施（再掲）	海底耕うん、海底ごみ回収、漁港清掃	農林水産
27	底質改善（シーブルー事業）（再掲）	東部海域での海底耕うん(シーブルー事業)	港湾空港

（４） モニタリング内容

① 海藻類種数調査

・調査主体：環境局自然共生課
・調査範囲：今津、能古島南部、志賀島南部（図 6）
・調査時期：5 月、2 月（年 2 回）
・調査項目：海藻・海草類の種類
・調査位置：岩礁域の潮間帯上部～潮下帯（漸深帯）上部
・調査方法：任意採取した海藻・海草類の種類を同定

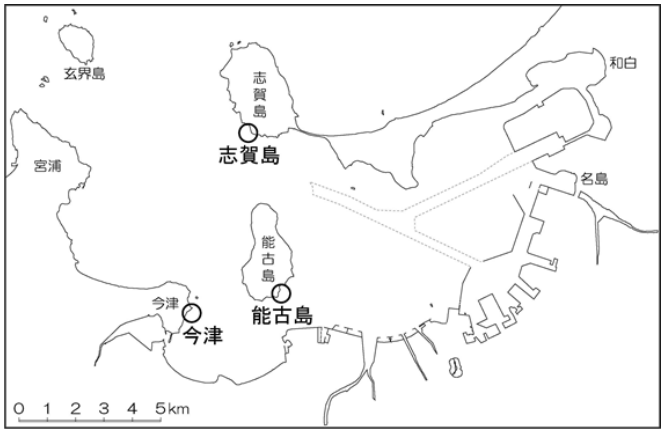


図 6　海藻類種数調査地点

② 和白干潟での干潟生物調査

・調査主体：港湾空港局みなと環境政策課
・調査範囲：H-6、H-9（図 7）
・調査時期：春季、秋季
・調査項目：干潟生物の種類・個体数・湿重量
・採取方法：スコップを用いて、1 地点あたり 3 回採取した底泥を混合（25cm 四方、深さ約 15cm）
混合泥を 1mm 目のふるいによりふるい分け

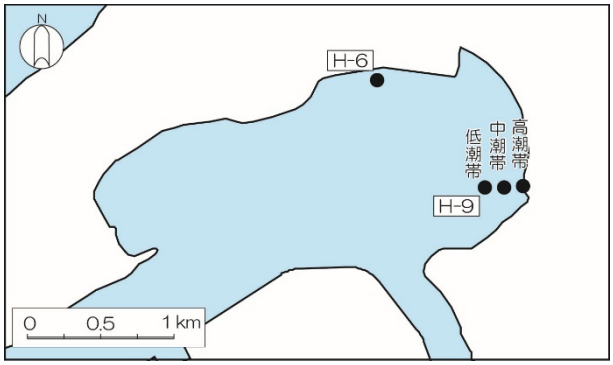


図 7　干潟生物の生息状況調査地点

③ 今津干潟でのカブトガニ産卵・幼生調査

・調査主体：環境局自然共生課
・調査範囲：今津干潟
　　（休憩所前（北側・南側）、瑞梅寺川河口、江の口川河口）（図 8）
・調査時期：8 月末～9 月の大潮期
・調査項目：卵塊数、幼生の個体数
・調査方法：調査区域に測線を設定し、測線上の砂中の卵塊を計測。
　　産卵調査地点の周辺区域において現地踏査によりカブトガニ幼生の分布状況を調査



図 8　カブトガニの産卵・幼生調査地点

④ 博多湾でのカブトガニの亜成体・成体調査（標識調査）

・調査主体：環境局自然共生課
・調査範囲：博多湾全域
・調査時期：6 月～9 月（産卵のために浅海域・干潟域に来遊する時期）
・調査項目：雌雄別、標識の有無、成熟度、前体幅
　　（福岡市漁業協同組合の協力により採捕されたカブトガニの捕獲日、場所、方法を記録）

⑤ 博多湾鳥類調査

・調査主体：港湾空港局みなと環境政策課
・調査範囲：埋立周辺地区（香椎、和白、海の中道、アイランドシティ、名島・城浜、多々良川）
　　博多湾西部地区（室見・大濠、今津）
・調査時期：4、5、9、11、12、1、2、3 月の月中旬の大潮期（計 8 回）
・調査項目：種数、個体数、分布と環境、行動
・調査方法：定位置観測及びロードサイドカウント

⑥ アサリ資源量調査（稚貝・成貝の生息状況）

・調査範囲：農林水産局水産振興課
・調査範囲：室見川河口干潟、多々良川河口干潟（図 9）
・調査時期：年 2 回（室見川河口）、年 1 回（多々良川河口）
・調査項目：稚貝、成貝の個体数密度の分布および資源量
・調査方法：調査範囲内において調査定点を設定し、坪刈り調査を実施

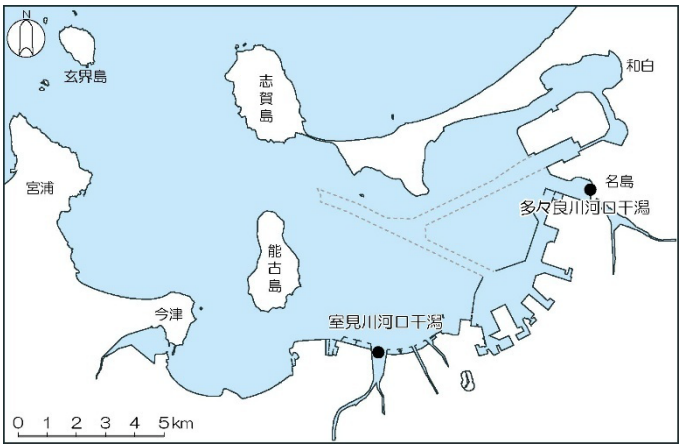


図 9　アサリの生息状況調査地点

⑦ 博多湾魚類調査（再掲）

・調査地点：保健医療局環境科学課
・調査地点：環境基準点である博多湾 8 地点（図 10）
・調査時期：年数回
・調査項目：環境 DNA を用いた魚種数
・採取方法：ステンレス製バケツを用いて表層（海面下 0.5m）の海水を採水
　　バンドーン型採水器を用いて底層（海底上 1.0m）の海水を採水

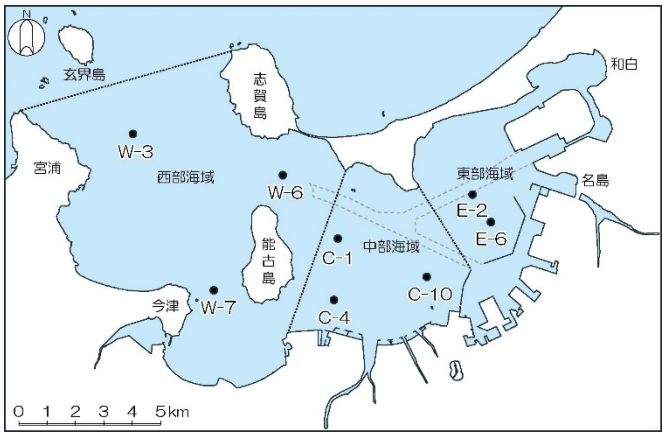


図 10　公共用水域水質調査地点

⑧ 浚渫土砂有効活用施工箇所における調査（再掲）

＜窪地の埋め戻し＞

・調査主体：国土交通省

・調査地点：窪地埋め戻し箇所（愛宕浜沖窪地箇所、百道浜沖窪地箇所）（図 11）

・調査時期：年 4 回

【底質】

・調査項目：粒度組成、COD_{sed} 、硫化物、強熱減量

・採取機器：エクマンバージ型採泥器又はこれに準じる採泥器

・調査方法：底泥を 1 地点あたり 3 回採取し混合

【底生生物調査】

・調査項目：底生生物の種類・個体数・湿重量

・採取機器：エクマンバージ型採泥器又はこれに準じる採泥器

・調査方法：1 地点あたり 3 回採取した底泥を混合し、網目 1×1㎜ の袋型ネットでふるい分け

＜浅場造成箇所＞

・調査主体：国土交通省

・調査地点：浅場造成箇所（図 11）

・調査時期：年 4 回

【底質】

・調査項目：粒度組成、COD_{sed} 、硫化物、強熱減量

・採取機器：ハンドグラブサンプラー又はこれに準じる採泥器

・調査方法：底泥を 1 地点あたり 2 回採取し混合

【底生生物調査】

・調査項目：底生生物の種類・個体数・湿重量

・採取機器：ハンドグラブサンプラー又はこれに準じる採泥器

・調査方法：1 地点あたり 1 回採取した底泥を混合し、網目 1×1㎜ の袋型ネットでふるい分け

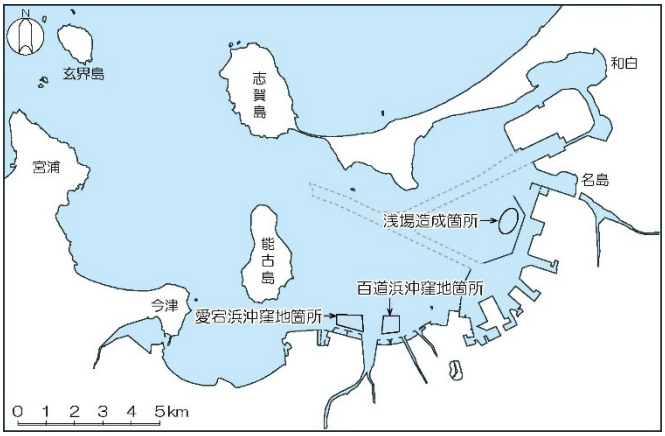


図 11　浚渫土砂有効活用施工箇所の調査地点

（５） 実績値把握

① 鳥類（環境省モニタリングサイト 1000）

博多湾東部（和白・多々良）、今津干潟におけるシギ・チドリ類の種数、個体数の把握
※公表データ

② 漁業・養殖生産量

福岡市漁業協同組合の漁業・養殖生産量の把握
※公表データ

基本的方向３　ふれあう　～市民が身近にふれあう博多湾～

（１）　計画目標像

・市民の親水空間が良好な状態で保全されている

（２）　指標・目標等

指標・目標		モニタリング内容・実績値把握
・ラブアース・クリーンアップ参加者数	・現状値より増加 ⇒R5 年度(41,800 人)よりも増加	[モニタリング内容] ①水浴場水質等調査 [実績値把握] ①ラブアース・クリーンアップ参加者数 ②百道浜来客者数 ③ごみ回収量 （海浜地ごみ・海底ごみ等）
・百道浜来客者数	・現状値より増加 ⇒R5 年度(300 万人)よりも増加	
・水浴場水質	・全地点 A 以上	
参考項目		
・ごみ回収量		

（３）　環境保全に向けて講じようとする措置

No.	事業名	概要	事業主体
ア　海岸域の清掃			
1	ラブアース・クリーンアップ事業	九州・山口各県において、市民・事業者・行政が協力して行う海岸・河川等の一斉清掃及び、年間を通した海洋プラスチックごみ問題の啓発を実施	環境
2	海浜地の清掃	海浜地の清掃を実施	港湾空港
イ　親水空間の整備等			
3	砂浜海浜の維持管理	シーサイドももち海浜公園などにおいて、溜まった砂を均して、美しい海岸に戻す作業など砂浜海浜の維持管理を実施	港湾空港
4	アイランドシティはばたき公園整備	供用範囲において、生きものについて学べる講座や自然環境の保全体験等を実施するとともに、公園整備を推進	港湾空港
5	アイランドシティの環境づくり（再掲）	緑地整備の推進	港湾空港

No.	事業名	概要	事業主体
イ　親水空間の整備等			
6	エコパークゾーンの水域利用（再掲）	エコパークゾーンの水域利用について、関係者とともに、住環境及び自然環境に配慮した自主ルール啓発のための活動を実施	港湾空港
ウ　浮遊ごみ等の回収			
7	臨港道路、岸壁等、海水域、海浜地の清掃	海水域、海浜地等の清掃を実施	港湾空港
エ　アオサ回収			
8	海域でのアオサの回収	和白海域及び能古海域において、アオサを回収	港湾空港

（4） モニタリング内容

① 水浴場水質等調査

・調査主体：環境局環境保全課
・調査地点：5 水浴場（13 地点）（図 12）
・調査時期：水浴場開設前に 2 回・開設中に 1 回
・調査項目：透明度、油膜、ふん便性大腸菌群数、COD
・調査方法：水深 1.0m の位置において、透明度や油膜の有無などを測定し、表層（海面下 0.5m）の海水を採水

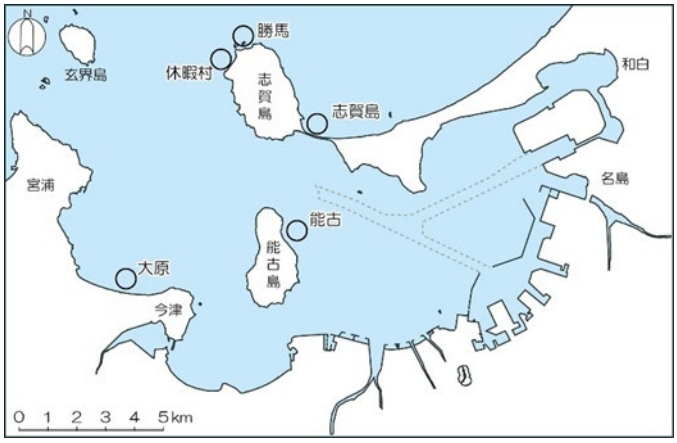


図 12　水浴場水質等調査地点

（5） 実績値把握

① ラブアース・クリーンアップ参加者数
② 百道浜来客者数
③ ごみ回収量（海浜地ごみ・海底ごみ等）

基本的方向４　つなぐ　～豊かな恵み・ふれあいを未来につなぐ博多湾～

（１）　計画目標像

・森里川海のつながりを意識した取組みが進んでいる
・多様な主体がそれぞれの強みを活かしながら博多湾の環境保全創造活動を行っている
・豊かな博多湾を未来につなげる取組みが進んでいる

（２）　指標・目標等

指標・目標		実績値把握
・博多湾環境保全創造活動の開催数	・現状値より増加 ⇒R5 年度（31 回）よりも増加	①博多湾環境保全創造活動の開催数 ②まもるーむ福岡における博多湾環境保全に関するイベント実施回数及び参加者数
・まもるーむ福岡における博多湾環境保全に関するイベント実施回数及び参加者数	・現状値より増加 ⇒R5 年度（7 回及び計 148 名）よりも増加	

（３）　環境保全に向けて講じようとする措置

No.	事業名	概要	事業主体
ア　環境保全創造の推進			
1	自然の恵み体験活動	森里川海それぞれの役割やつながりの大切さを学び体験する活動を実施	環境
2	松林の保全活動	松林を対象に松くい虫防除対策を実施	農林水産
3	森と海の再生交流事業（再掲）	漁業者、林業関係者、ボランティア団体等と共働で、植林作業等を実施	農林水産
4	市営林保育管理事業（再掲）	森林の水源かん養や保健休養、国土保全、環境保全等の多面的機能を高めるため、下刈や間伐等の保育を計画的に実施	農林水産
5	室見川水系一斉清掃（再掲）	室見川水系の上流から下流までの一斉清掃	早良区
6	ラブアース・クリーンアップ事業（再掲）	九州・山口各県において、市民・事業者・行政が協力して行う海岸・河川等の一斉清掃及び、年間を通した海洋プラスチックごみ問題の啓発を実施	環境
7	博多湾ＮＥＸＴ会議等による環境保全創造	市民、企業、漁業関係者等の多様な主体と連携したアマモ場づくりや博多湾の魅力発信等	港湾空港

No.	事業名	概要	事業主体
ア　環境保全創造の推進			
8	和白干潟保全のつどい（再掲）	和白干潟を中心に活動する市民団体等と「和白干潟保全のつどい」において、環境保全活動等を実施	港湾空港
9	里海保全再生事業（再掲）	今津干潟において、地域住民や多様な主体と共働で干潟の保全再生活動を実施	環境
10	市民参加による干潟生物調査（再掲）	干潟の重要性、多様な生物の生息場や水質浄化機能等の役割を学ぶ一環として、市民参加による干潟生物調査を実施	環境
イ　その他			
（ア）　小学生を対象とした環境学習			
11	今津小学校の干潟生きもの観察会	地域の特色である今津干潟において、生きもの探しや干潟の特徴を学ぶ環境学習、干潟清掃活動を支援	環境
12	奈多・香住丘小学校のアマモ場づくり	アマモ育成ポットづくり体験を通じて、博多湾の環境についての学習を実施	港湾空港
13	エコパークゾーンの環境保全創造	多様な主体との共働による環境保全活動等を実施	港湾空港
（イ）　環境保全に関する情報発信			
14	保健環境学習室「まもるーむ福岡」	カブトガニ教室などの環境学習講座や、環境保全活動に取り組む団体の交流支援等を実施	保健医療
15	環境局ホームページ	環境に関する情報発信 ・博多湾環境保全計画 ・博多湾環境保全計画推進委員会 ・博多湾環境モニタリング調査等の結果	環境
16	出前講座	博多湾に関する出前講座「博多湾NOW～生きものの育みと恵みを未来につなぐ豊かな博多湾を目指して～」を実施	環境
17	博多湾の環境ＰＲ	博多湾の環境への理解を深めるため、市民イベントの実施や動画等を使った情報発信	港湾空港

（４）　実績値把握

① 博多湾環境保全創造活動の開催数

② まもるーむ福岡における博多湾環境保全に関するイベント実施回数及び参加者数

その他（地球温暖化の影響）

① 潮位

・調査地点：博多験潮所（図 13）
・調査時期：通年

② 気温、全天日射量、降水量

・調査地点：福岡管区気象台（図 13）
・調査時期：通年

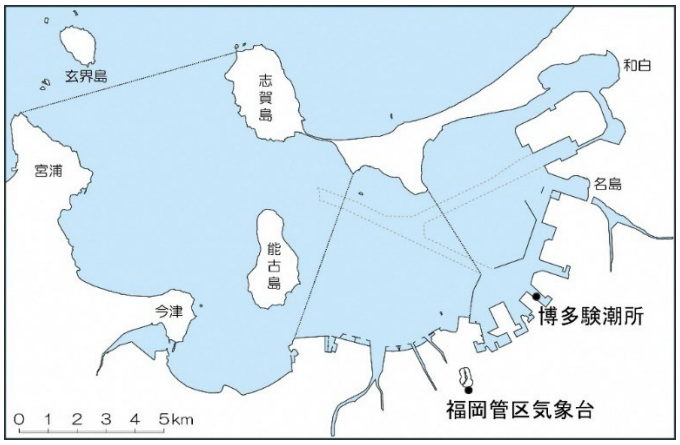


図 13　その他の調査地点

③ 水温

・調査主体：環境局環境保全課
・調査地点：環境基準点である博多湾 8 地点（図 14）
・調査時期：毎月 1 回
・測定方法：バンドーン型採水器を用いて、表層（海面下 0.5m）、中層（海面下 2.5m）、底層（海底上 1.0m）の海水を採水し、現地にて測定
（「公共用水域水質調査」と合わせて実施）

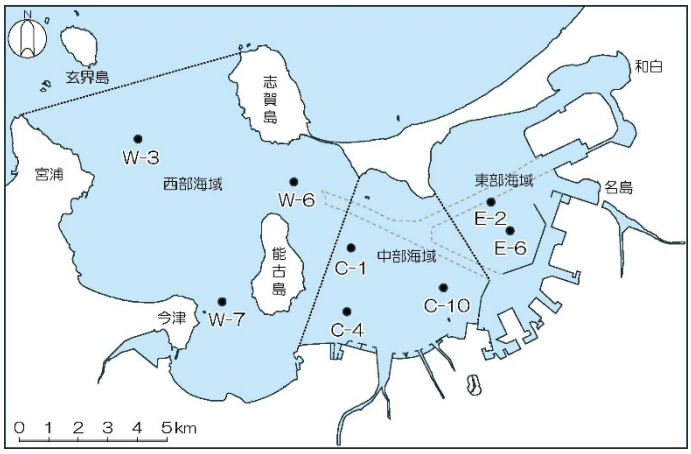


図 14　公共用水域調査地点

２　課題解決に向けた調査・研究の内容

（１）　博多湾のノリ、ワカメ養殖場の栄養塩について
（調査主体：福岡県水産海洋技術センター）

・毎年、養殖漁期中（11～3 月）に養殖漁場周辺の栄養塩濃度を週 1 回程度測定し、ノリ、ワカメの生育状況と比較するとともに、漁業者への情報提供及び養殖指導を行う。

（２）　博多湾の水質環境について
（調査主体：福岡県水産海洋技術センター）

・博多湾内の水質環境の把握のため、4 月～3 月に、湾内 6 地点において、栄養塩濃度（無機態窒素、無機態リン酸態リン）及び水温、塩分、溶存酸素を測定する。

（３）　二枚貝類生息環境調査について
（調査主体：福岡県水産海洋技術センター）

・二枚貝類の生息に必要な栄養塩濃度の把握のため、月 1 回（昨年度 11 月から引き続き 4 月～11 月）に、湾内 8 地点において、アサリ等の育成試験および窒素・リン濃度測定その他の水質環境調査を実施する。

（４）　博多湾における環境ＤＮＡを用いた魚類のモニタリング
（調査主体：保健医療局環境科学課）

・博多湾における魚類の生息状況を広範囲で把握することを目的に、環境基準点及び沿岸域において環境 DNA 技術を用いた魚類の網羅的モニタリング調査を実施し、データの比較・解析及び調査手法の最適化の検討を行う。

（５）　魚類相による博多湾のアマモ場等評価
（調査主体：環境局自然共生課）

・博多湾、唐津湾、玄界灘のアマモ場の魚類相を把握・比較することにより、博多湾のアマモ場の魚類相の特徴と位置づけを整理し、環境保全創造施策の基礎資料とする。

（６）　博多湾水質の統計解析
（調査主体：環境局自然共生課）

・博多湾の水質の統計解析や基礎生産力への影響因子を解析し、博多湾の栄養塩類のあり方検討に向けた水質の現状整理及び基礎資料とする。

（７）　赤潮発生及び出水時の水質・生物調査
（調査主体：環境局自然共生課）

・博多湾における赤潮発生時等の水質・生物及び博多湾流入河川の流入負荷量の現状を把握する。

（８）　高次生態系への栄養塩類負荷量の影響把握
（調査主体：環境局自然共生課）

・食物連鎖モデルを用いた高次生態系への栄養塩類負荷量の影響評価を行う。

３　市民・事業者・NPO 等と共働による環境保全活動の推進

No.	事業名	概要	事業主体
1	海の中道青少年海の家	自然に直接触れ、「環境保全活動」、「自然観察活動」等の活動プログラムによる環境教育・学習が実施できる青少年施設	こども未来
2	森と海の再生交流事業（再掲）	漁業者、林業関係者、ボランティア団体等と共働で、植林作業等を実施	農林水産
3	室見川水系一斉清掃（再掲）	室見川水系の上流から下流までの一斉清掃	早良区
4	ラブアース・クリーンアップ事業（再掲）	九州・山口各県において、市民・事業者・行政が協力して行う海岸・河川等の一斉清掃及び、年間を通した海洋プラスチックごみ問題の啓発を実施。	環境
5	和白干潟保全のつどい（再掲）	和白干潟を中心に活動する市民団体等と「和白干潟保全のつどい」において、環境保全活動等を実施	港湾空港
6	里海保全再生事業（再掲）	今津干潟において、地域住民や多様な主体と共働で干潟の保全再生活動を実施	環境
7	エコパークゾーンの環境保全創造（再掲）	多様な主体との共働による環境保全活動等	港湾空港
8	博多湾ＮＥＸＴ会議による環境保全創造（再掲）	市民、企業、漁業関係者等の多様な主体と連携したアマモ場づくりや博多湾の魅力発信等	港湾空港
9	市民参加による干潟生物調査（再掲）	干潟の重要性、多様な生物の生息場や水質浄化機能等の役割を学ぶ一環として、市民参加による干潟生物調査を実施	環境
10	自然の恵み体験活動（再掲）	森里川海それぞれの役割やつながりの大切さを学び体験する活動を実施	環境
11	保健環境学習室「まもるーむ福岡」（再掲）	カブトガニ教室などの環境学習講座や、環境保全活動に取り組む団体の交流支援等を実施	保健医療

4　計画の推進

①　計画の推進体制

No.	事業名	概要	事業主体
1	博多湾環境保全計画推進委員会	計画の着実な推進を図るため、「博多湾環境保全計画推進委員会」において進行管理等を行う	環境ほか

②　情報の発信

No.	事業名	概要	事業主体
1	環境局ホームページ（再掲）	環境に関する情報発信 ・博多湾環境保全計画 ・博多湾環境保全計画推進委員会 ・博多湾環境モニタリング調査等の結果	環境
2	出前講座（再掲）	博多湾に関する出前講座「博多湾NOW～生きものの育みと恵みを未来につなぐ豊かな博多湾を目指して～」を実施	環境
3	博多湾の環境ＰＲ（再掲）	博多湾の環境への理解を深めるため、市民イベントの実施や動画等を使った情報発信	港湾空港